

- PPPoE接続に関する前回検討のフォローアップ

## 質問3-1

資料15-3のP19で、「トラフィック増加の(対応)コストは全事業者が負っている」と示されている。ネットワークが輻輳し、顧客サービスに不利益が生じたとき、輻輳発生の原因となるネットワーク(の所有者)各社が、それぞれコスト負担して輻輳を低下させる対応をすべきだという主張だと思われる。NTT東西は、上記の考え方についてNTT東西の考え方を示していただきたい。【佐藤構成員】

## 回答3-1

- インターネットトラフィックの増加に対し、各者が、それぞれコスト負担した上で、設備増強を行うべきということについては同意見であり、現に当社及びISP事業者様において、トラフィック増加への対応を行っています。
- また、網終端装置について、2018年6月にはその増設基準を見直しをしたことに加え、ISP事業者様が自由に増設できるメニュー(D型)も用意しているところであり、ISP事業者様の網終端装置を増設したいという要望にお応え出来るよう対応を進めているところです。
- 当社としては、各ISP事業者様の課題の解決に向けて、今後も各者様との協議を継続させていただき、各者様のご意見やトラフィックの動向等を踏まえながら増設基準の見直しの必要性について、引き続き検討させていただく考えです。

- PPPoE接続に関する前回検討のフォローアップ

## 質問3-2

資料15-3のP21で、「NTT東西はユーザ費用とISP (VNE) の費用の二重取りしている」と示されている。この問題提起に対して、NTT東西の考え方を示していただきたい。【佐藤構成員】

## 回答3-2

- 「NTT東西はユーザ費用とISP (VNE) の費用の二重取りをしている」と問題提起されていますが、ISP事業者様にお支払いいただいている費用に加え、当社のユーザ料金も回収しているといった費用を二重取りしているという事実はありません。
- 具体的には、当社利用部門が設定しているユーザ料金は、当社利用部門が負担する「一般収容局ルータ接続ルーティング伝送機能（収容局接続機能）」等の費用に加え、需要動向、競争状況、市場価格等の市場環境等も勘案し設定していますが、当社管理部門がISP (VNE) 事業者様にご負担いただいている費用を見込んで設定していません。

## ○ PPPoE接続に関する前回検討のフォローアップ

### 質問3-3

PPPoEは輻輳しているが、トラフィックベース増設基準が実現すれば輻輳を解消できるのか。それとも、IPoEへの移行（ローミングを含む）の方が現実的な解決策なのか。NTT東西及びJAIPAそれぞれより回答いただきたい。【西村（真） 構成員】

### 回答3-3

- 円滑なインターネット接続の実現に向けては、当社のみならずISP事業者様においても、適時適切に自社ネットワークを増設いただく等、当社とISP事業者様の双方が協力していくことが必要と考えております。
- 網終端装置の増設基準が現状のセッション数ベースかトラフィックベースかによらず、網終端装置の増設を含めた混雑状況の改善にあたっては、ISP事業者様、NTT東西共に設備増強に伴う費用が生じることとなるため、各者のサービスポリシーに照らしたニーズを踏まえて対応していく必要があります。
- なお、NGNのISP接続（PPPoE接続）においては、既にISP事業者様が網終端装置を自由に増設できるメニュー（D型）を用意していることに加え、2018年6月には増設基準を見直す等、網終端装置を増設したいという要望にお応え出来るよう対応を進めているところです。第14回研究会（2018年9月26日）で説明したとおり、今後も網終端装置の増設を要望されている事業者様に対して、今回の基準見直しを含めた解決策の提示が行っており、網終端装置の混雑状況の改善が図られると想定しています。
- 当社としては、今後もISP事業者様と協議を継続させていただき、更なる接続環境の改善のご要望があった場合については、その実現に向けた対応を適時適切に検討していく考えです。
- また、網終端装置の増設以外にも、IPoE方式への移行（ローミング含む）等も、混雑状態の改善に有効な手段の一つであると考えます。